



# 第71回 渋川摂食嚥下研究会レポート

日時：令和3年8月3日（火）午後7時00分～  
会場：渋川ほっとプラザ4階

## I 講演：『高齢者の栄養サポート』

～嚥下機能維持や褥瘡予防について～

講師：鶴巻温泉病院 栄養サポート室  
室長 高崎 美幸 先生



『「HAPPY」という言葉が好き』という高崎先生、その言葉通り笑顔がとても素敵な先生でした。

さて、今回は「高齢者の栄養サポート」というテーマで実際の

経験をもとにご講演いただきました。先生は神奈川県で訪問栄養食事指導を行っており、当初の想定範囲より広い地域で依頼があるそうで、ニーズの高さがうかがわれます。しかし、やはり「(病院から)外に出ていく」というのはハードルが高く、院内での栄養サポートの重要性を理解してもらうところから始まり、次に地域との連携を深めていくのに何年もかかったとのことで、ひとつひとつの積み重ねがあり、今の需要の高さにつながっているのだと思います。

さて、本研究会は「食べられない人をどう工夫して食べられるようにするか」がメインの講演が多いのですが、まず大事なことは「本人、家族に口から食べたいという希望があること。これがある人は機能障害が重度であっても希望がある。」とのこと。なんとなく「食べること」を当然のように考えていましたが、そもそも気持ちがあれば上手くいくものもうまくいかないという、当たり前なことに気づかされました。

また、「その人らしく」「本人・家族の意思を大事に」ということを何度もおっしゃっており、患者さん（利用者さん）に寄り添っていくという姿勢を強く感じました。

本人の希望をサポートし、叶えていくことで本人が「笑顔」になっていく。→本人の笑顔を見て周りが「笑顔」になっていく。→地域が元気になっていく。

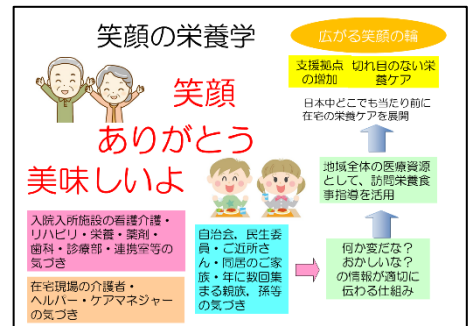
先生は管理栄養士として栄養支援から笑顔を広げていますが、職種は関係なく、できることがあるのかではと思います。

### 参加者内訳

職種	参加人数
医師	2
歯科医師	6
保健師・看護師	5
ST・OT・PT	7
管理栄養士・栄養士	5
その他	9
合計	41

Web参加※	14ヶ所
--------	------

※1ヶ所で複数名の参加あり



Take-home Message

地域栄養ケアでは「その人らしい生活」に向けての視点 → 高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を送るために、「在宅」で生活できる栄養士を出来る限り高める。

在宅生活を支えるために必要な栄養支援を考え、そこにつなげるための助言を行う。

本人の現在の生活実態・リスクや人間関係・残存能力を 最大限生かすことを優先する。

多職種・他事業所を繋ぐ、マネジメント能力を育てる。

そして地域に笑顔の輪を広げましょう！

本人・家族のHAPPY！  
暮らしたい場所で自分らしく生きる  
"Enjoyment Of Life"！  
栄養士とついで大きく変わります！！

ありがとうございました。

その人らしい生活スタイルを守り、  
思わず笑顔がこぼれる！  
そんな栄養支援を目指しています。

